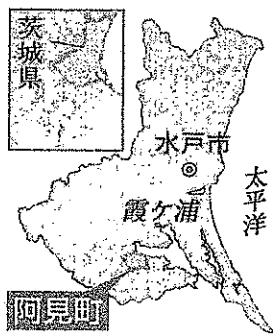


「知らない人にも」が方針

広げよう 2000万署名



「知っている人からも、知らない人からも、署名してもらおう」が活動方針です。戦前は予科練(海軍飛行予科練習部)、現在は自衛隊の施設を有する茨城県阿見町では昨年11月、「安保関連法(戦争法)の廃止を求める2000万署名」阿見町実行委員会が結成されました。町内の民主団体や女性団体、農民組合、個人で構成。取り組みが始まっています。

(唐沢俊治)

予科練と自衛隊の町 茨城・阿見

同実行委の構成団体の一つ、阿見町九条の会が10日、成人式会場前で、日本共産党の永井義一町議も加わり署名を呼びかけまし

新成人も納得し

「おとなとしての大事な人生が始まったけど、戦争



新成人に署名を呼びかける阿見町九条の会のメンバーら=10日、茨城県阿見町(永井義一党町議提供)

とんでもないよ。」

大竹さんは、「じっくり話をすれば、みんな署名をしてくれそうです。誰もが同じ気持ちだと分かります」と述べました。

幅広い人脈を生かして署名を呼びかけているのは、前町長で九条の会代表の川田弘二さん(80)。「あきらめない」「忘れない」を合言葉に多くの人が結集して、安倍政権を交代させた」と語りました。

人口4万8000人の阿見町は、署名の目標を人口比率にすると8000人。昨年取り組んだ戦争法案の廃案を求める署名数は、遠く及びませんでした。町内

には自衛隊関係者が多く、「趣旨は分かるが、立場上できない」と断られることも。実行委の会議では、署名数だけでなく、対話の数などを含めた「行動数」8000を目標と話し合いました。

「知らない人に1人では行きにくい」というメンバーは2人一組の担当地域を当てました。月2、3回定例行動を決定。署名用紙と返信用封筒をセットにした取り組みグッズを作り、留守宅にも備えました。「行動数」は現在300超と、取り組みは緒に就いたばかりです。

運動続ける原点

九条の会事務局長の中山熙之さん(72)は中学生の時、「なんでもばかな戦争したの」と母に聞きました。「母が『反対なんてできなかった』と、情けない顔をしたのが忘れられません。僕が子や孫から同じことを聞かれたら、あんな顔はしたくない」。運動を続ける原点です。

安倍首相は今年夏の参院選に向け、憲法改正を掲げています。

署名行動に今年新たに加わった落合照子さん(70)は言います。「戦争法に賛成した議員を再選させてはいけない。改憲は絶対阻止しなくてはならない」